

会 議 名	第2回港区環境基本計画策定のための基礎調査業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和元年5月23日（木） 午前11時から正午まで
開 催 場 所	区役所8階 環境リサイクル支援部会議室
委 員	出席者 5名 環境リサイクル支援部長 新井 樹夫（委員長） 環境リサイクル支援部環境課長 茂木 英雄（副委員長） 街づくり支援部都市計画課長 富田 慎二（委員） 環境リサイクル支援部地球温暖化対策担当課長 大久保 光正（委員） 環境リサイクル支援部みなとりサイクル清掃事務所長 重富 敦（委員）
事 務 局	環境課環境政策係
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	議題 1 一次審査及び二次審査対象者の選定について 2 二次審査の実施方法について 3 その他
配 付 資 料	資料1 一次審査採点結果集計表 資料1－2 一次審査採点結果集計表（講評等） 資料2 一次審査事務局採点項目の評価について 資料3 一次審査 通過事業者用通知文（案） 資料4 一次審査 不通過事業者用通知文（案） 資料5 港区環境基本計画策定のための基礎調査業務委託事業候補者選考二次審査実施要領（案） 資料6 二次審査採点基準表

会議の結果及び主要な発言

	<p><b>開会</b></p>
事務局	<p>1 一次審査及び二次審査対象者の選定について</p> <p>(事務局が、資料1から資料4までに基づき説明)</p>
A委員	<p>今回の事業候補者からの提案書の評価について、各委員の皆様が評価したポイントなど、感想をお願いしたい。</p>
B委員	<p>A事業者もB事業者も、資料としては大差ないというか平均的なところかと思っている。2事業者ともそれぞれ課題や現状というところは一定程度おさえられている。A事業者については補足資料を付けてきているところもあって熱意は感じるころがあり、今後の取組についてもいろいろな角度から、例えば地域共生社会の実現に向けたパートナーシップ強化、まちづくり分野との連携、国際環境都市港区ビジョン会議といったことも書かれており、評価した。B事業者についてはインターネットを活用したアンケートの提案や、分野横断的施策を計画のメインに据えていったらいいのではないかと提案もあったので、そういったところを評価した。</p>
C委員	<p>まず業務従事予定者の配置計画及びスケジュールについて、類似実績はB事業者の方が多いが、配置されている技術者の港区の手持ち業務量がすごく多い。例えば主任技術者は、全く委託期間がかぶっている港区の大きな仕事を二つやっている。主任技術者がこれだと厳しいのではないかとというようなところが少しあった。</p> <p>港区を取り巻く環境については、B事業者の方が港区の特性や、港区の環境についての現状と課題についてよく捉えていると思った。</p> <p>調査データの収集及び整理についても、あまり差が出なかったが、A事業者の方はみなとタウンフォーラムの意見整理を具体的にどのように行っていくのか少し聞いてみたいと思った。</p> <p>課題解決に向けた取組の提案では、A事業者の方が公募型環境貢献事業とか中小企業の環境貢献を評価する仕組み、(仮称)国際環境都市港区ビジョン会議など新たな提案をしているが、新鮮である一方、実効性のある取組なのか、ヒアリングで聞いてみたいと思うところがあった。</p> <p>見積については、A事業者の方は主任技術者の計上がなく、技師Aが1人工しかなかったので少し不安かなと思った。</p>
D委員	<p>2人の委員と同様、差が出ないのかなという、全体的にはそういう評価をした。</p> <p>A事業者については、組織体制について特に問題がないと思った。スケジュールも普通だが、やや時間かかり過ぎになっている感じがした。区の地域特性についてはおおむね把握されている感もあるが、一般論的な感じも受けた。取組の提案については実</p>

	<p>現可能な提案をしていると思うので、少し評価をしたところである。全体的には平均的、無難な事業者であるという評価をしている。</p> <p>一方でB事業者の方は、今C委員からもあったが、業務体制6名配置しているが、本当にこの6名というのが機能していくのかなというのが、実績などを考えると、港区の業務はたくさん取り組まれているということだが、ちょっと真意を聞きたい。それから、区、都、国のそれぞれの現状・課題に分類して、現状・課題というのを的確に捉えている部分もある。その辺りは港区の業務をたくさんされているということが強みなのかなと思う反面、提案が少し先走っている感もあるのかなというのは感じた。課題の提案についてはおおむね良いと思うが、一般論化、マンネリ化しているようにも見た。全体的には平均的な事業者と見受けられたので、A事業者もB事業者ともに、素質としてはあるが、甲乙付けがたいところも感じた。</p>
E委員	<p>私はBの方を少し高めにはしているが、あまり大差はないのかなと思っている。</p> <p>A事業者については、窓口だったり体制だったりスケジュール管理だったりという部分については、結構信頼をおけるかなと思いつつも、後半の現状と課題から最終的な取組に至るストーリーというかシナリオ、そこは何となくぶつ切りになっていて、担当者がバラバラに書いたのではないかという勘ぐりもできてしまう感じである。</p> <p>逆にB事業者は、業務体制や業務スケジュールについて、窓口が少し不明確だったりスケジュールはざっくりとしていたりというところは少し首をかしげる部分はあるが、一方で、現状と課題、調査分析、取組等については、環境基本計画の中2階化への問題意識などといったことも含め、チャレンジングになっている気がしている。</p> <p>A事業者の後段の現状と課題から取組に関しては、全体的に具体性が欠ける提案になっていて、現状と課題についても、区の地域特性を地形と昼間人口だけで表現するのでは少し視野が狭いと感じる。また、せっかく学識経験者5名にヒアリングするにもかかわらず、そのうちの2名を東京海洋大学又は芝浦工業大学、戸板女子短期大学など、普段から付き合いのある大学の教授に聞いてみるというのは少しもったいない気もした。</p> <p>B事業者は、チャレンジングという一方で、たばこや騒音など身近な環境課題の言及が抜け落ちていた部分はマイナスと思った。ただ一方、調査分析の中で時系列の比較や他団体との比較、インターネット調査で回収率を高める意図など、そういったものが言及されているのは、A事業者には無い部分だと思った。区民への見せ方や向上心についてはB事業者の方が少し上回ったかなという評価である。</p>
A委員	<p>私もほとんど大差ないと感じた。B事業者はやはり経験があるし、規模的にも大きいですが、ただ、機能するのかなというのは少しあった。</p> <p>内容については、少しA事業者の方が丁寧に記載があり、例えば収集したデータの整理及び活用など、工夫しているなというところがあった。それから、環境施策の現状と課題もA事業者の方が優れていると思った。ただ、ほとんど基本的には大差がないので、二次ではいろいろと聞いてみたいと思っている。</p>
A委員	<p>点数に修正がなければこれで評価を決定したい。</p> <p>一次審査通過事業者だが、ただいまの審査を踏まえ、何者を一次通過とするか。</p>

各委員	(2者とも通過で異議なし。)
A委員	それでは、両者を一次審査通過事業者ということで決定する。
	<b>2 二次審査の実施方法について</b>
	(事務局が、資料5及び資料6に基づき説明)
C委員	プレゼンテーションの資料はこの企画提案書とは別に作るというイメージでいいか。企画提案書で行う場合もよくあるが、今回は企画提案書から抜粋するというような、強調したいところだけ抜くというイメージでいいか。
事務局	はい。
D委員	参加者について、前回3人だったのを、今回総括責任者を含む4名以内にした理由があれば確認したい。
事務局	公募の段階で出している選考方針の中では、企画の雛形に沿った形で、参加申込書に記載された担当者と総括責任者は同席してもらう旨をうたっており、それにプラスして、主任技術者と担当技術者もそれぞれ参加する場合も想定し、それらを含めた4名以内ということにしている。
E委員	二次で企画提案書にある以外の新規提案をすることはできませんというのはどういう考え方になるのか。一次で何者か落ちてしまって、残ったところだけのプレゼンといった時には何となく後出しジャンケン的なのでどうなのかなというところはあるが、今回2者が競い合う中で、もう新規あるいは充実させるような提案は一切認めませんよというのは、そういう全庁的なルールなんかもしれないが、どういう考え方になるのか。 プレゼンと質疑の中で、これやりますよみたいなことを少し言ってしまうのもいけないのか。 2者申し込んできて2者が二次審査という中で、予算の範囲内で何かできるという提案を一切受け付けませんというのはどうなのか。
事務局	一次・二次の審査を公正に行うというところの1点だけだと思う。 選考の中でより良い事業者を選ぶという観点では、今回の一次の枠内で収めるのでは、少し二次が空虚化してしまうような側面があるので、そういった意味では今回の委員会の中で、ある程度の伸びの部分を、どのように審査するかというのはご議論いただいたほうがよいと思う。
E委員	企画提案書にあるものを肉付けして、それが少しムキムキの肉なのか、そういう言い方はOKなのか。ヒアリングというのは、そういうところも引き出しはしないかもしれないが、聞きたいところでもある。

事務局	<p>今回、基礎調査の業務委託ではあるが、あえて企画提案書の様式9を作成する際に、課題解決に向けた取組の提案ということで、基礎調査で得たデータを次の計画に生かすようなことを書くことを求めたという経過はあるので、それが限られた枠の中で一次ではこの様式に収めるということで収めてきたので、単語だけが入っていたりといった部分は、ここを膨らましてよく聞いてみる必要がある。</p> <p>それが新しい提案となってしまうのかどうかってところは評価だと思う。</p>
A委員	<p>公平性を阻害するかというと、そんなこともないかと思う。一次は一次で終わっているわけなので。もう余りにも関係ない、予算も超えてしまうような話なんていうのは出てこないと思うが。そういう場合は困ると思うが、密接不可分であれば、どんどん新しい提案をいただいているのかなと思う。それが評価にもなってもいいと思う。</p>
E委員	<p>結局契約した後もいろいろなキャッチボールの中で、仕様通りにぴたぴたにやるわけではないのだと思うし。取組姿勢とか意欲をどう採点しようかと考えたときに、前向き感が出るように。</p>
事務局	<p>漠然と書いたことを具体的にプレゼンの中で強調して御説明いただく。一次の分を大きく逸脱しない程度にその新しいずれに必要な資料を用意して御説明いただくという分には可能というふうにご判断いただければ。</p>
E委員	<p>新規提案は認められないが、書いてあることの肉付け、充実というところについてはむしろ積極的に話してもらいたいところである。</p>
A委員	<p>密接不可分であればいいのではないか。これはよろしいですか。</p>
E委員	<p>共通質問については、これを聞きたいというアイデアが今あるわけではないが、あったほうが良いとは思う。</p>
C委員	<p>タウンフォーラムの意見の整理をどうやるのかについて、私は聞いてみたい。</p> <p>さっき言った公募型環境事業とか中小企業の環境貢献を評価する仕組みとか、(仮称)国際環境都市港区ビジョン会議とか、いろいろ言葉では書いてあるが具体的にこんなことをやるというのは書いていないので、それは聞きたい。</p>
E委員	<p>それはA事業者だけでは。両方に共通で聞いておきたいことというのは逆に事務局からあるのか。</p>
事務局	<p>他の計画改定との兼ね合いについてのお考えみたいこととかどうかと思う。</p>
D委員	<p>組織体制について、ここでは表現できていない、何かコメントとか、そういうのはいただきたい。そこは少し共通の質問として、確認したいと思う。</p>
C委員	<p>組織体制、本当に執行体制とかサポート体制が取れるのかというのを聞くべき。</p>

A委員	では、これはやはり共通で聞くこととする。
事務局	どういう質問の投げ方にするか。
D委員	A事業者に関しても、結局ここだけしか表現していないので、その辺をもう少し掘り下げて、何か新たなコメントがあるか、本当にサポート体制はこれでいけるのかというのを確認すればいいと思う。業務が立て込んでいるのはB事業者かもしれないが、A事業者についても、この体制は本当にできるのかという確認すればいい。
B委員	共通質問ですと言わなくてもいいのでは。
E委員	委員に何を聞いてもらうというシナリオみたいなものがあれば。 業選とかも考えたときに、ちゃんと網羅的に聞いているかどうかということも配慮して。 これを確認して欲しいというのは、持たせてもらった方がいいのではないかと思う。
A委員	他に事業者に対して質問した方がいい事項があるか。それから回答に当たって準備が必要なもの、事業者事前に伝える必要がある事項があれば。
E委員	双方の事業者とも相当の実績を持っているので、実際携わった計画の現物、自信作はこれですみたいなものを出してもらってはどうか。インターネットで調べればPDFで見られるだろうが。 今回は基礎調査なので、出来あがりには問題ではないかもしれないが、見せ方だとかね、デザインなど、完成品を見て私たちの自信作ですというのは一つ参考にはなる。それが二次審査の採点のどこに反映されるのかは別としてだが。あくまで基礎調査の事業者だということで、そこの難しさはある。
C委員	今までの実績の中から、調査の中で一番大事なことは何ですかというのを聞いてはどうか。多分基礎調査だけでも今までいろんな事例があって、やはりこの計画ではこの調査が必要ではないかというのは、そこが一番大事なところではないかと思う。
E委員	全国の実績を持っていたとしても、都心港区の場合は、こういうところが違うとか、どういうところが違うと思っていて、調査項目の中に力点を置いていますとか、港区ならではというところを確認してはどうか。書いてはくれているのだろうが。
A委員	それは事前に伝えるか。準備が必要か。その場で聞く形で良いか。
E委員	その場で良いと思う。その場の対応力とかも見ることができる。
C委員	事務局でいくつか、今言った共通のものと、あといくつか質問を作っておき用いておけばいいのではないか。やってみて、あとはプレゼンの中で再度質問したいものというのは多分あると思うので。

B委員	今出たぐらいの内容、項目の方がいいと思う。あまりガチガチに数を増やすと15分間の中でそれだけになってしまうので、半分ぐらいをそれに使えるぐらいの方がいいのかなと思う。
事務局	今の趣旨の項目を用意して、当日委員に質問いただくという形でよろしいか。事前にかちかちの共通質問を作って事業者に送ってというようなことではなくて。
C委員	こんな質問がある、みたいなものを手持ち資料としてみんなで共有しておけばよい。
A委員	それでは、いただいた意見を反映して、二次審査実施することとさせていただきます。
	<p><b>3 その他</b></p> <p><b>スケジュールの確認</b></p> <p>(事務局から次回の選考委員会の日程の確認)</p> <p>第2回選考委員会はこれで閉会する。</p> <p><b>【決定事項】</b></p> <p>(1) A事業者、B事業者ともに、一次審査通過とする。</p> <p>(2) 二次審査において、企画提案書にある以外の新規提案の発表は認めないが、企画提案書を補足する説明については認めることとする。</p> <p>(3) 両事業者に共通した質問を行うが、質問内容は事前に通知はせず、当日委員から質問する。</p> <p>(4) 共通質問の内容は、組織体制について、また、これまでの実績や都心港区の特性を踏まえ調査に当たって大事なこと、力点を置くべきところについて等整理し、あらかじめ委員全員で共有の上、当日の質疑に臨む。</p>
事務局	